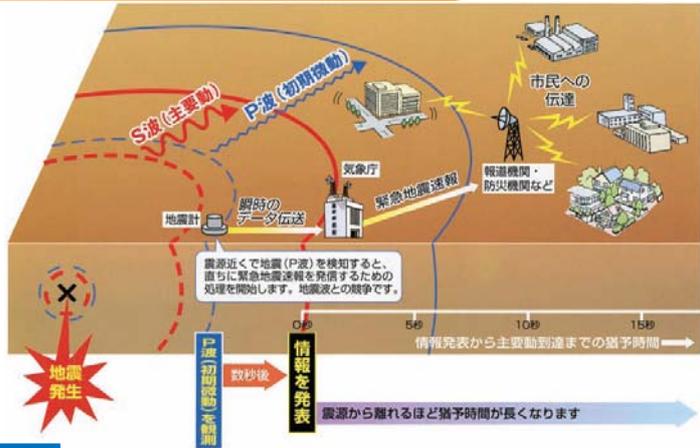


## 緊急地震速報 10月より提供開始 (気象庁)

10月1日より緊急地震速報の一般への提供が始まります。

### 緊急地震速報の概要

地震波には、伝播速度が速い「P(プライマリ)波」(約7 km/秒)と、大きな揺れを起こす伝播速度の遅い「S(セカンダリ)波」(約4 km/秒)があります。緊急地震速報は震源地付近で検知したP波の初動データを使い、震源地情報をコンピューターで解析し、S波による強い揺れが来ることを事前に告知する情報です。これまでの研究・調査によりP波の発生検知からS波到達までには数秒から数十秒あると言われており警戒情報などを発することで地震による死傷者は大幅に軽減できると考えられています。



### 緊急地震速報の入手方法

#### 〔1〕テレビやラジオによる放送

NHK テレビのスーパーでの表示および、ラジオは放送を中断して放送を行う。



#### 〔2〕防災行政無線による放送

総務省消防庁による全国瞬時警報システム(J-ALERT)を用いた防災行政無線による放送

#### 〔3〕携帯電話による受信

大きな遅延の影響を受けずに、緊急地震速報を送りたい特定エリアの対応携帯電話に対して、一斉配信します。(別途、携帯電話会社への申し込み等必要になります。)

#### 〔4〕専用端末等を利用した情報入手方法

気象庁より配信された緊急地震速報を、緊急地震速報提供事業者を通じて、インターネット等により専用端末に情報を配信します。



緊急地震速報受信専用端末

### 緊急地震速報の活用方法

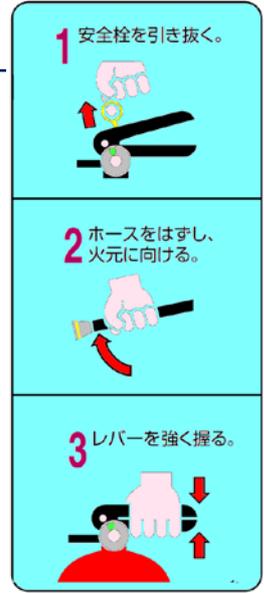
危険場所からの避難	安全確保	予防処理
<p>高所作業現場などで、いち早く緊急避難を行なわせると共に、周囲にも危険が迫っている事を報知する。</p>	<p>学校や施設内において、机の下等への避難誘導や避難経路の確保など、お子様やご老人の安全確保の為に報知する。</p>	<p>病院施設内での高度医療機器の緊急停止や手術中患者の安全確保、薬品の転倒防止などの予防処置の為に報知する。</p>
避難誘導	二次災害防止	落下物回避
<p>公共施設や大型商業施設などで、混乱を防ぐ為の事前処置として危険場所(ガラススペースやエスカレーター)から遠ざけ、避難誘導する為の報知を行う。</p>	<p>調理場や火気・危険物を扱う場所において、事前に火を止め、火災や爆発の二次災害を予防し、熱い物や化学薬品等から離れる為の報知をする。</p>	<p>倉庫や工場などにおいて、落下物等の危険から身を守る為に事前に報知し、従業員の身の安全確保と周囲への報知をする。</p>

### 緊急地震速報の問題点

緊急地震速報は、震源に近いところでは情報を発表してから主要動が到達するまでの時間が数秒から数十秒と極めて短く、情報が間に合わない場合があることや、震源、マグニチュード、震度等の推定の精度が十分でない場合があるなど、技術的な限界もあります。緊急地震速報を適切に活用するためには、このような特性や限界を十分に理解する必要があります。

皆様ご存じのことと存じますが、消火器の基礎知識について、5回に分けてまとめてまいります。  
「使い方」・「使用上の注意点」・「消火原理」・「消火薬剤」・「消火器の構造」。  
まずは、「使い方」からです。

## 一般の小型消火器



## 大型消火器



「夏の風物詩」

8月5日夕方、宇治の鵜飼事務所にて、一般のお客さんが鵜飼見物の舟に乗って鑑賞する迄の時間帯を利用して、鵜へのエサやり、鵜舟の準備、鵜飼をする場所への回漕、2人の女性鵜匠の身拵え、鵜の括り紐の取り付け、篝火への点火などを撮影させて貰った一枚で、普通では写す事の出来ない珍しい写真です。

(いつも写真のご協力をお願いしている方からのコメントです)